

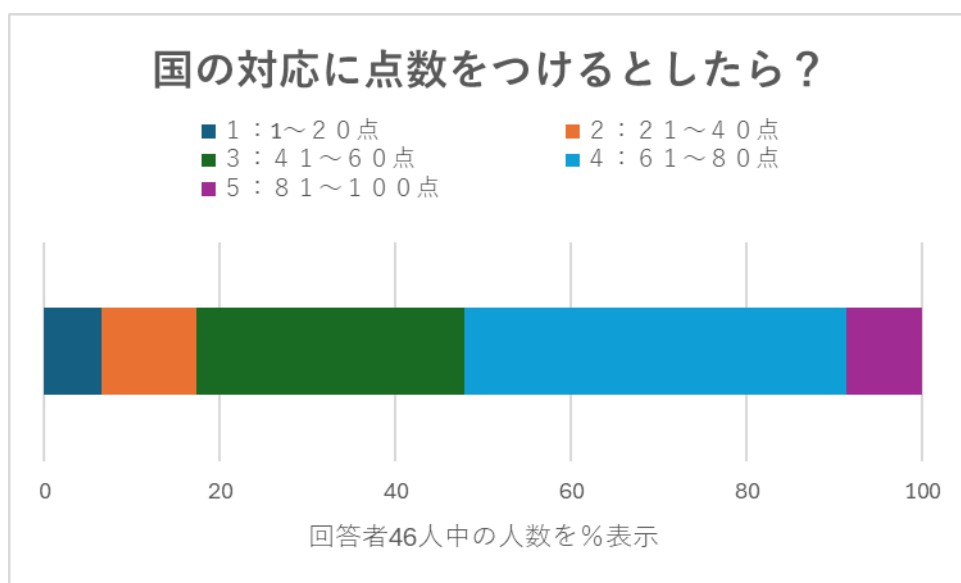
コロナパンデミックへの国の対応に点数をつけると？—事後アンケートの結果紹介

東京理科大学理数教育研究センターアドバイザー 高橋真理子

6月28日に開催した科学技術コミュニケーションセミナー「コロナと闘って見えたこと—リスクコミュニケーションの課題」の事後アンケートでは、通常の質問項目のほかに、「新型コロナウイルス感染症に係る国の対応について点数をつけるとしたら何点ですか」「その点数を選んだ理由を教えてください」という質問も入れた。回答者数は46人と多くはなかったものの、一般市民がどのように受け止めているかをうかがい知る貴重なコメントが集まった。その概要を紹介したい。

そもそもこのセミナーの参加者は、コロナパンデミックへの対応に関心を持つ人たちと考えられ、その中でも強い関心を持つ人たちがアンケートでコメントを書き込んだと思われる。それを前提に結果を見てほしい。点数を「1~20」「21~40」「41~60」「61~80」「81~100」の5つの中から選んでつけてもらった結果は下のグラフになる。

「点数をつけることは意味があるのか疑問」とし、「対応にととても満足」「満足」「どちらともいえない」「不満」「とても不満」の5段階と読み替えて「3をつけた」とコメントした1人もこの中に入っている。



一番多かったのは、「61~80」の4で、43%を占めた。これに5を足すと52%で、いわゆる「合格点以上」がわずかに50%を超えた。これをもって「何とか合格点がついた」と解釈することも可能だが、「合格、落第がほぼ半々」と捉えることもできる。人々の複雑な気持ちが数字に表れているのは間違いなく、国民全体の気持ちを推し量る一つの手がかりになるとはいえるのではないかな。

注目すべきは、点数そのものよりも、それを選んだ理由のほうだろう。1を選んだのは3

人。1 人は以下のように詳しく理由を書いた。「1. 過剰な不安をあおり、マスクの外せない人々や感染症に罹るのが悪だと考える人々が増えた。2. マスクやワクチンのお願いという名の事実上の強制をしておきながら、期待するような効果が得られなかったことについて、総括を行わず責任を誰も負わない。3. mRNAワクチンの危険性について分かっていた後も、情報を正確に伝えることを怠った。4. ほぼ重症化しないにもかかわらず、突然の休校により、子供たちに対して教育の機会を奪うなど大きな犠牲を強いた点。特に高齢者を守るためとして、子供たちや若年層に犠牲を強いた政府・専門家委員会を絶対に許すことはできません。人権の侵害と言えるほどのものであったと思います。政府や専門家委員会はこれまでの誤りを認め、きちんと謝罪すべきです」

2を選んだのは5人で「後手後手だったと思うから」「『空中分解』をしていたように感じました」「2009年の新型インフルエンザ後に、対策総括会議報告書が策定されたが、結局、『神棚に置かれた』状態だった。今回の新型コロナウイルス感染症後も、課題が指摘されたが、同じような状態になっている」「備えが脆弱で、新興感染症に十分に対応できないことを露呈しつつも状況の変化に応じて日本政府にしては迅速になんとか頑張っていたように思った。ただし、無駄な政策も多かったし、それを総括して次のパンデミックに備える体制を作ろうとしているようには見えないのが問題」「予防接種時の混乱です。電話をかけても繋がらない、高齢者はネット予約ができない、ミドル層もネットが繋がらない→繋がっても予約がすでにいっぱいという時期がありました」と、それぞれの理由が記されていた。

「41~60」点の3は14人。「ダイヤモンドプリンセス号の対応は頼もしかったけれど、安倍首相のマスク配布は無いなって思ったので」「情報の初期対応の不十分さと情報の伝達に難があったため」「犠牲者を先進国最低に抑えたことは評価できるが、国民への説明はあいまいなままで、教訓を活かすための検証が行われていない」「当時は初めてのことばかりで混乱もあり、社会に不安や不満が広がりました。行政も頑張っていたとは思いますが、布マスクを配布したことなども印象に残っており、合格点はあげられません」「すぐに休校とし、教育を止めてしまった。当初、文部科学省や教育委員会から新型コロナウイルス感染症に関する情報などは、無かった。予算の使われた方も適切であったのかと思う」「当時、高校生、大学生、社会人になりたての若者のコロナ後の行動や考え方や働き方を見るにつけ、日本にとって、深刻なダメージを与えたのではないかと考える事が多い」などが理由だった。中には「様々な批判に晒された尾身氏であるが、国家の非常時にあの役目を演じることが他の誰かに出来たのかと考えると適任だったと思う」というコメントもあった。

「61~80」点の4は20人で、「感染者数を低くおさえ、重症化を防ぐことができた」「他国と比べて感染の度合いが低かった」といった点を評価した人が多い。「専門家が、科学顧問の役割を果たして行政と社会の間をつなぐコミュニケーションを進めたことを評価するから」という理由を挙げた人もいた。この方は続けて「一方、首相、内閣、厚労省などが、情報の開示や政策決定のプロセスを説明しなかった点は、社会の信頼構築を妨げた行為として批判される必要がある」としている。

2や3を選んだ人と似たようなコメントも少なくなかった。複数の方が「新型インフルエンザのときの教訓が生かされなかった」ことを問題点として挙げ、これは国民がほぼ共通して持った思いであることがうかがわれた。「ワクチンの副作用と考えられる症状に対する原因究明の対応と国民への説明が不十分でワクチンへの不信感を払拭できなかった。ワクチンの効果に対する説明が感染防止から重症化防止へと変化したことに対して、本当に重症化防止に繋がっているのか具体的説明がなかった」「アベノマスクは小さ過ぎて使いにくかった。その予算は唾液検査キットを普及させることに使って欲しかった」などの指摘もあった。

「政治は結果がすべてですから、人口あたりの死者が少なかった・経済のダメージも他国並みだったという結果は評価します。初動で尾身先生をはじめとする優れた専門家を招集できた点がまずはよかったと思います。一方で、国民に何かを強いるような政策に関しては専門家に言わせ、Go To トラベルのようなものは政治家から発信するという傾向があったように思います」「未曾有の事象が起こった時、人口1億数千万人のわが国で全ての国民が満足する対策を構築し実行する事は不可能であり、もし国民全員が満足したと回答するような国はその国の体制に問題があるのではとってしまう。対策が上手くいったかどうかの判断はそれぞれの立場、価値観によって異なると思う。私の判断としてはトータルで見ると及第点であったのではないかと考えている」という2つのコメントからは、4を選んだ人の気持ちがよく伝わってくる。

「81~100」点の5をつけたのは4人。「今の生活に戻れたから」や「未曾有のパンデミックに対し、他の国に比べて大変良い内容でした。リーダーの尾身先生が素晴らしかったと思います」などが理由として挙げられていた。

謝辞：アンケートにご協力くださった方々に深く感謝します。